

市民文芸

短歌

令和八年度
第五十五回阿南市短歌会春季大会 選

最優秀賞 重箱を開けば草もち七つあり孫がま
るめた蓬の香り 宮本久美子

優秀賞 また一人電話番号削除する北風吹きて
淋しい夜に 長尾 久子

優秀賞 日出づる国の総理はがんばりや午前三
時に仕事するらし 松島 博子

優秀賞 まじまじと鏡を見つむばあちゃん「高
市早苗」に似てると言われ 杉山きみよ

優秀賞 那賀川をヒタヒタ攻める冬潮が鉄橋ま
下で清水と馴染む 小畑 定弘

互選賞

一位 右肩を少し上げゐる抜け殻のコートが
独りの吾を見下ろす 広瀬 艶子

二位 旅に出る孫は整理せしゴミ袋オツと持
ち上げ挨拶とせり 西條 悦子

三位 モナリザの視線が怖いどこ見てる読ま
れているか君と逢う日は 五島 秀子

入選 観もしないテレビの音を大きくし人の
恋しき日暮れとなりぬ 五島 秀子

入選 「お来たか」父の施設を過ぎるたび声聞
こえるもういないのに 庄野 悦子

俳句

阿南市俳句連合会 選

着ず捨てず父の形見の夏背広 森 伸

家族みな寝付いたらしき水中花 青木 慧

ライト浴びジャズを踊るや桜桃忌 神野千鶴子

あめんぼう足に泡持ち静かなり 中川よし子

マンシヨンは十五階建雲の峰 宮崎三千代

発酵の晩茶の匂い夏の果 中富はるか

梅干しや若きあの頃今いずこ 鳥海 勇二

夏草の扉まで隠す古屋敷 岡本 隆子

卯波立つおらが古里北の脇 横手鉄格子

朝やけの山のかなたに日が昇る 岡田 茂子

川柳

阿南川柳会 選

苦勞じわ両の手見つめ振り返る 表原 節子

蚕から仕上げた着物母の愛 佐藤つたえ

切れた愛縫って待ちます恋女 篠原 良子

老い元氣負けても通う囲碁の会 西田 修身

両手に花孫と曾孫に手を引かれ 野村 敏子

夫婦仲傷は小さい内に縫う 若木アヤ子

出席を遠慮している血糖値 渡邊ろまん

一般応募

生涯を見事に語る母の指 泰地 重美

あの時は眼鏡曇っていたらしい 武田 敏子

時間だけお先にどうぞマイペース 福島 義明

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

驟雨 荒瀬左知子

炎炎溽暑火雲天 火雲の天

流汗襟寒覺午眠 午眠覺めたり

臥聽丁東風鐸急 風鐸の急

雷聲驟雨噪殘蟬 殘蟬の噪ぐを

夏日所見 山川 治

雨氣無催仰夏雲 夏雲ヲ仰グ

近鄰庭上遇人耘 人ノ耘ルニ遇ウ

開窗童子促留意 留意ヲ促シ

拭汗家翁警不聞 警聞カ不

新涼讀書

池田 行子

窓風氣冷新涼生 新涼生じ

一穗青燈照几清 几を照らして清し

尚友蠹魚蟲韻裏 蟲韻の裏

入秋愈識讀書情 愈識る讀書の情

※蠹魚―紙を喰う虫、無駄な読書人

